

第8話 学校研究 高校入試編②

今回から実際に、それぞれの学校を研究してみましょう。

まずは、帰国枠入試を行う学校から。（面接や調査書については、特筆していない場合も、入試に含まれると思ってください）

・青山学院高等部

一般入試では中々に難易度の高い学校ですが、帰国入試はガラリと変わります。

試験としては、英・国・数を60分で行う「適性検査」と、面接になります。

適性検査は、いずれも基礎力を問うものであり、それほど難しかったという声は聞かれませんが、その他の受験勉強をしていれば、問題なく解けるレベルの問題と言えるでしょう。3科目のうち取り掛かる順番も自分次第なので、時間配分に気を付けましょう。

面接試験は、グループディスカッションのような形態です。人によってはプレッシャーを感じるかもしれませんが、場の空気に飲まれないように。面接はとにかく慣れです。

・中央大学杉並高校

中央大学付属4校のうち唯一、帰国枠の入試を行っています。青山学院と近い形態ですね。学科試験も「基礎学力検査」となります。英・数・国、各30分の試験で、公立高校の問題と同程度の難易度でしょうか。一般入試の問題は中央大付属の中でも癖がありますが、帰国枠の問題は、満点を取る前提でいきましょう。調査書や面接重視といえますね。

入試問題がHPに掲載されているので、トライしてみましょう。

（解答は公表されていないので、ご希望の方はお問い合わせください）

ちなみに、帰国枠の倍率は一般よりも下がるのが通常ですが、この学校は、帰国男子の倍率が高くなる珍しい学校です。

参考までに、いくつかの学校の2016年度の合格者倍率を載せてみます。

	中央大学杉並	青山学院	慶應義塾高	慶應義塾女子
一般男子	2.2倍	3.0倍	3.3倍	
一般女子	2.0倍	3.2倍	2.5倍	
帰国男子	3.4倍	2.4倍		3.2倍
帰国女子	1.7倍	2.5倍		2.0倍

※補欠合格者は含まず

中杉が目立ちますね。それでも帰国枠を得ることは大きな武器になりますので、最優先で考慮しましょう。

なお、GMARCHと呼ばれる学校群で、学習院・明治・立教の系属校では帰国枠の高校入試がありませんが、立教池袋の一般入試は、帰国生にとっても有利なものです。というのも、試験科目が「英語と面接」のみなので、一考の価値がありますね。

次回以降もいろいろな学校を見ていきますので、お楽しみに。

著者：谷口 仁

Aug 6 2016